



『松前方言考』研究(二〇〇七年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2012-01-23 キーワード: 作成者: 山内, 幸大 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.32150/00007296">https://doi.org/10.32150/00007296</a>

## 『松前方言考』研究

国語学研究室 三一四九 山内 幸大

本研究は、江戸時代末期の北海道方言がどの地域の言葉の影響を受けて形成されたのかについて、北海道方言に関する最古の書物である『松前方言考』を用いて考察したものである。これまで、明治時代以前の北海道方言に関する研究はあまりなされていない。『松前方言考』の語彙を、各種の辞典や『松前方言考』以前に書かれた東北地方の方言書との比較が主な研究方法である。

北海道方言は、東北方言の影響が大きいと言われている。確かに最初に松前地へ移住した人々の出身地は東北・北陸地方が多かった。しかし、『松前方言考』と東北の方言集との語彙の比較では類似点が少なかった。また、江戸時代に日本海域の貿易に従事した北前船がある。北前船は西日本地域の産物を松前地へもたらし、松前地の発展に大きく貢献した。江戸時代末期の北海道方言は、初めに移住してきた東北・北陸の人々の言葉が土台となり、その後、北前船の影響により、東北方言だけではなく、近畿・中国地方を中心とした西日本の言葉の影響も大きく受けて形成されたと考える。

また、函館で『松前方言考』の語彙残存率調査を行った。『松前方言考』が書かれてから一五九年経た現在では、語彙残存率は約二割程度であった。